

# 台風19号災害 被災現場の 今

昨年10月に発生し、本県に大きな被害をもたらした台風19号。ここでは被害を受けた市内の河川や道路、施設などの復旧状況をお伝えします。



## 市内の被災状況

- 住家等被害  
住家：半壊 7棟、一部損壊 9棟、床下浸水 40棟  
住家以外（店舗・蔵・納屋など）：  
全壊 1棟、一部損壊 1棟、床上浸水 29棟、  
床下浸水 13棟
- 一級河川 4箇所（決壊および越水）
- 準用河川・認定外水路 35箇所（護岸崩壊など）
- 市道・認定外道路 144箇所（法面・路肩崩壊、舗装版崩壊、土砂堆積など）
- 農道・水路・堰 170箇所（補修必要箇所）
- 農地法面被害 303箇所（補修必要箇所）
- 林道 10箇所（土砂流出、路肩崩壊、路面洗掘）
- 農業被害  
イチゴ 13件 342a、トマト 2件 50a、  
しいたけ原木（8万本浸水および流出）、  
パイプハウス倒壊 6件 27棟 など

### 準用河川（新堀川）



【被災状況】  
市が管理する準用河川新堀川（中・安沢地内）で護岸の崩壊や河床洗堀などの被害を受けました。

【現状】  
早期の完全復旧に向けて、測量・設計を実施し、国の災害査定で復旧工事費として、3,152万円が決定したところです。現在、工事請負業者が決定し復旧工事の準備を行っています。現場は、復旧工事が完了するまで危険ですので、近づかないようお願いします。

### 市道・認定外道路



【被災状況】  
市内144箇所では法面・路肩崩壊、舗装版崩壊、土砂堆積などが発生し、数週間にわたり一部通行止めが発生しました。

【現状】  
市道鹿島町矢板4号線（生涯学習館南側）では中川のはん濫により道路見下げ法面の崩壊、防草コンクリートや水路、カーブミラーなどが損壊しましたが、現在は復旧が完了しています。そのほかの被災箇所も順次復旧工事を行っていますが、箇所数が多いため時間がかかる見込みです。工事に伴いご不便をおかけしますが、ご協力をお願いします。

### 農地・農業施設



【被災状況】  
市内全域で、303箇所の農地法面の崩壊、170箇所の農業施設（農道・水路・堰など）の崩壊が起き、多数の被害を受けました。

【現状】  
大規模な災害（中川決壊隣接部・下太田他9箇所）については、国の補助金を活用し、市が代行工事を実施しています。被災した小規模農道など（81箇所）については、復旧工事を順次行っています。  
また、小規模な農地・水路法面崩壊や堰の決壊などについては、市の材料支給制度（杭、板等）を活用し、今年の作付けができるよう、農業者や関係者、地域ぐるみで復旧作業にあたっています。

### 矢板運動公園野球場



【被災状況】  
野球場西側の法面が崩壊し、外野フェンスが損壊しました。グラウンド内にまで土砂が流れ込み、使用ができません。

【現状】  
復旧に向けて調査設計や国との調整に取り組んできました。工事請負業者が決定し、間もなく、工事着手となりますが、被災範囲が大規模であることから、当面の間、園路の通行止めや野球場が使用できない状況が続く見込みです。また、現在も山側から水が染み出しており、今後も崩落の危険性がありますので、近づかないようお願いします。

## 矢板市文化会館整備方針

市文化会館については、復旧の検討をしてきましたが、老朽化による改修費用や防災の観点などから延命させ、利用を続けることは望ましくないと判断し、復旧を断念することになりました。  
しかし、矢板市にとって文化会館のような施設は必要であると考え、新たな施設として屋内体育施設をはじめとする既存施設の集約などを視野に入れ、今後整備を検討していくこととしました。



▲ 昭和56年に建設された矢板市文化会館は、大ホール（定員1,112人）と小ホール（定員400人）を持ち、塩谷地区最大規模の文化施設として市内外の方から多く利用をされてきました。  
台風19号による大雨の影響で、近くにある中川がはん濫し、地下の電気室や空調機械室に水が流れ込み電気系統が壊れ、被害を受けてから休館となっています。

### 現文化会館を復旧させると...

災害復旧工事  
約5.2億円

（補助金+共済金）市負担なし

水没した受変電設備、空調機器および発電設備などは修理で対応ができず、新たに設備の設計・製造をするため、約2年の期間が必要となります。

老朽部分改修工事  
約11億円

（補助金等なし）市全額負担

被災した設備を復旧させた後も順次、建物の耐震化や音響、舞台などの各種設備の改修が必要であり、本市にとって大きな財政負担となります。

### 《改修後の問題点》

- ・文化会館がある内川右岸が洪水浸水想定区域に指定される可能性が高く、今後の災害でも再び浸水するリスクがある。
- ・定員1,112人の会場に対し、1回あたりの平均利用者が215人となり、年間3,000万円の赤字が発生している。

以上のことから  
**復旧断念**  
を決定

### 新たな施設の建設を検討

とちぎフットボールセンターの残地を利用し、  
文化施設 兼 体育施設 の建設

施設内容（案）：体育館としても使用できる可動式の多目的ホール など

健康づくり

生きがづくり

まちなかの  
にぎわい

防災拠点

安全性の確保

民間活力の  
導入

具体的な内容に関しては、施設整備に関する調査を実施し、今後の整備方針を決めていきます。



▲ 昨年4月に末広町地内にオープンしたフットボールセンターの残地約16,000㎡については、現在も利用方法の検討を重ねています。今回の新たな施設の建設は、残地の利用方法のひとつとして約16,000㎡のうち約8,800㎡の利用を想定した検討を行います。